

「誇り・魅力・やりがい」の向上に必要な視点

取りまとめの方針

- 建設現場で働く人々（当事者）の「誇り」「やりがい」の向上に取組み、その結果、「魅力」が向上する仕組みとする。
- 具体的な施策は、**継続的・恒常的**に取組まれることが重要である。
- 施策の対象は、**年代や職種等多様なターゲットを明確化**し、それぞれの施策に対して効果的な戦略の展開を図る。
- 「誇り」「やりがい」「魅力」の**「相乗的効果」**が発揮できる仕組みづくりを図る。

施策内容

- これまでの取組みを「**見える化**」し、各団体等の**取組みの連携や発展**を図る。
- 知らない人には「知ってもらい」、「興味を持ってもらい」、「やってみたい」など、**受けての体験価値・実感**に繋がる施策への展開に取組む。
- 「誰に」、「何を」、「どう伝える」、更に、「**伝える**」事に「**伝わる**」を意識した、施策の展開を図る。

推進体制

- 関係団体等からの、アイデアや提案・要望等を取り入れて、施策の融合や新たな展開に向け、連携・協働の体制を構築する。
- 情報の共有や検討体制の確立に向け、広報戦略など様々な実施主体におけるプラットフォーム的な組織の構築を検討する。

個別事項(例) * 今後、提案等を踏まえて具体化する予定

誇り

対内的(当事者に向けて)

- 個々の取組みに、元請と下請企業など団体間の連携があってもいい
- 技術の習得や研鑽など、研修制度の充実も必要
- 処遇の改善とともに、自身の成長の感覚を満たす要因(昇進、表彰等)が必要。

やりがい

魅力

対外的(第3者に向けて)

- 災害復旧活動は、その活動自体を反対する人がいないため、PR材料としては強みとなる

対内的(当事者に向けて)

- 現場で働く人々の世代・職種等なより、感じる魅力の違いを意識して、多様な切り口でのアプローチを用意する。